



歯学部創設30周年

発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 五十嵐 武
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>

昭和大学歯学部は創設30周年を迎えます。

退職にあたって

高齢者歯科学教室 積田 正和

桜の季節が近づいてきました。今年は桜を愛でる前に定年退職することになりました。

在学中は、何の取柄もない私を導き、お付き合いいただきました恩師、先輩、同僚をはじめとして、学内、学外の皆様よりいただいたご厚情に対して心より御礼申し上げます。



さて、私が本学職員として辞令をいただきましたのは昭和55年1月1日付でした。それから数えますと26年と3ヶ月になります。それ以前の昭和46年4月から東京医科歯科大学(旧第3補綴)に在籍した年数を加算しますと、長かったとも思いますが、意外に短かったようにも感じます。いずれにしても、歯科を志して歯科界に入り、歯科で無事に退職することができたことを我ながら喜んでおります。そして満足しております。この先、何年できるかわかりませんが、これを区切りとして、さらに歯科の畑でなにがしかお役に立ちたいと願っております。

長年にわたり、私はよき師、よき同僚に恵まれ、充実した大学生活を過ごすことができました。特に恩師である林都志夫先生、平沼謙二先生には公私にわたりご指導賜りました。先生からは、臨床ライター時に「学生や後輩の指導は成長を願う愛情がなければ、教えることも育てることもできない」との御高説を拝聴したことが今でも私の心の糧となっております。

昔は、臨床系である補綴では、「若い時は鼻血が出るまで臨床をしろ」というのが合言葉になっていました。今はそのようなことを望むべくもありませんが、生涯にはこのような時期があってもよい、と今も思っております。臨床学科では、いかに定理に長じていてもそれが臨床の場に現されなければ意味がなく、手が動かない、では臨床の教師ではありえないと思います。特に大学病院の臨床の先生は、若くとも周りが持ち上げて偉くしてくれます。それに溺れると臨床を離れがちになり、心すべきことだと思います。

終わりに、これまで無為無能の私を盛り立ててくださったOBを含め教室員の先生方に、心から感謝をささげます。

昭和大学歯科病院と教室の発展を祈りつつ

平成17年度卒業式・第23回卒業証書伝達式

歯学部長 宮崎 隆

去る3月17日(金)午前10時から神宮外苑の日本青年館大ホールにて、昭和大学の卒業式が挙行されました。前日の暴風雨の影響が心配されましたが、幸い雨もあがり華やかな式典になりました。今年は保健医療学部の第1期の卒業生を送り出す記念すべき年でした。医歯薬保健医療学部で総勢577名、うち歯学部は90名(第24回生)でした。御父兄の参加も多く、会場の二階席も立ち見が出るほどでした。例年通り、各総代に卒業証書・学位記が細山田学長から授与されました。学長告辞、小口理事長の祝辞に引き続き、上條賞(歯学部は鈴木 大君)、同窓会賞(松尾英子さん、上村祐加さん、山中麻美さん)、上條旗ヶ岡賞(村上明日香さん)の表彰が行われました。さらに記念品の贈呈、花束贈呈と続き、校歌斉唱で11時半に閉会しました。

その後、各学部に分かれて伝達式を行いました。歯学部会場は明治記念館で、御父兄も多く出席のもと、立川学生部長の開会の挨拶と司会で厳粛な式典を執り行いました。学生一人ずつに宮崎学部長から卒業証書・学位記を伝達しました。学部長、川和歯科病院長、飯島同窓会長の挨拶に引き続き、昭和歯科医学生賞ほかの表彰を行ない、佐藤教育委員長の閉会の挨拶で終了しました。今年の卒業生は卒後研修の必修化に伴い、国家試験の日程が早くなったことに加え、初めてのマッチングにも参加し、例年以上に忙しくストレスのたまる一年であったと推察されます。卒業後は歯科病院で研修を受けるほか、全国の研修施設に散らばることになります。昭和大学の卒業生としてプライドをもってこれから歯科医療人としての充実した生活を送るよう期待しています。



教授送別会

歯周病学教室 山本 松男

去る3月15日、顎口腔疾患制御外科学南雲正男教授、小児成育歯科学佐々龍二教授、インプラント科科長教授倉地洋一教授の歯学部教授会主催による退職送別会が、自由が丘で行われました。昭和大学歯学部開設当初よりご尽力頂きました三先生方から、楽しかったこと困難だったことなど、様々な思いをもとにこれまでの歯学部の発展の経緯や今後の歯学部の発展などについてのお話を伺うことができました。三先生方には送別の記念に花束が送られました。南雲先生、佐々先生、倉地先生、今後ともご指導賜りますよう、よろしく願い申し上げます。



歯学部第24期謝恩会

齶蝕歯内治療学教室 久光 久

平成18年3月17日(金)18時から帝国ホテル本館孔雀西の間において、華麗・盛大で和やかな謝恩会が開催されました。

帝国ホテルでの謝恩会は今回が初めてです。隣の孔雀東の間では医学部の謝恩会が開催され、小口理事長、細山田学長も挨拶に駆けつけられました。卒業生とその父母が、お世話になった教員をひとりずつ拍手で会場に迎え入れてくれることから始まり、実行委員の綿密な企画と用意周到な準備により、順調に進行しました。今回は例年になく多くの父母が参加されたのが印象的でした。

謝恩会は2部構成からなり、第1部では宮崎歯学部部長の挨拶に続き、川和病院長が乾杯の挨拶。その後、3月末に定年で退職される南雲教授、佐々教授、倉地教授、鈴木正子教授に記念品が贈呈され、出席された名誉教授、教授の先生方に卒業生から壇上で花束が贈呈されました。

第2部では、昭和大学の思い出深いキャンパスや教室・実習室等の写真を大型スクリーンに映写しながら森山直太郎の「さくら」を参加者全員で合唱。また、「講義のわかりやすい先生」「白衣の似合う先生」「父親にしたい先生」「熱意のある先生」の投票結果からベストスリーが発表され、1位の先生方(五十嵐先生、南雲先生、倉地先生、渋澤先生)に賞状が

送られました。

最後に全員で記念写真撮影。大倉実行委員長の挨拶で21時に閉会しました。

大学院終了式

口腔病理学教室 立川 哲彦

平成17年度昭和大学歯学研究科博士課程修了式が3月24日に開催されました。多くの教授の方の出席のもとに、本年度は19名の院生が



修了を迎え、細山田学長より歯学博士の学位記が授与されました。学位記を授与された修了生に対して細山田学長より告辞が述べられ、学位記は非常に高度な研究した証でもあるが、今後、この研究する心を忘れないで、更なる精進をし、歯科界の指導者となるようにとの告辞がありました。また、宮崎大学院歯学研究科長は優秀な研究が育ったことは我々の誇りであり、それぞれの未知のトップランナーになってこれからも頑張ってもらいたいと挨拶されました。

修了式後記念撮影が行われ、引き続き、中央棟7階のレストランで、祝賀会が開催されました。祝賀会では修了生が一人一人、修了後の専門領域への道とこれからの抱負が述べられ、将来が非常に期待される言葉でありました。



行事予定

広報委員長 五十嵐 武

- 4月3日(月):H18年度進級式(新2, 3, 4, 6年生)
- 4月3-25日(月, 火):D3顎口腔PBL
- 4月5日(水): 歯科医師国家試験発表
- 4月7日(金): 入学式・入寮式
- 4月10日(金): 大学院第1学年オリエンテーション
- 4月17日(月):D6選択実習開始

入試情報(選抜Ⅱ期)

口腔生理学教室 井上 富雄

選抜Ⅱ期入試が3月5日(日)に行われました。入試科目はⅠ期と異なり、英語と数学のいずれかと理科(物理、化学、生物から1科目選択)の合計2科目となっています。

試験当日は晴天に恵まれ、昨年度に引き続いて今年度も他大学歯学部の入試が無く、単独の入試となりました。8名の募集に対して209名(26.1倍)もの志願者があり(昨年度より16名増)、8名(男子4名、女子4名)が合格しました。以上をもちまして、平成18年度入試が無事終了しました。ご協力いただいた職員の皆様、誠にありがとうございました。

試験	募集人員	出願期間	試験日	合格発表
推薦	23名	H17.11.1	H17.11.13	H17.11.16
編入	若干名	H17.11.1	H17.11.13	H17.11.16
センター	10名	H18.1.4	H18.1.21,22 H18.1.28	H18.2.9
選抜Ⅰ期	55名	H18.1.4	H18.1.28	H18.1.31
選抜Ⅱ期	8名	H18.2.13 -2.28	H18.3.5	H18.3.7

D4 CBTの実施

CBT委員長 中村 雅典

1月24、25日の両日、D4学生対象にCBTが本格実施されました。当日は共用試験機構側からモニターとして東京医科歯科大学荒木孝二教授、東京歯科大学河田英司教授が参加されました。

学生は午前・午後にわたり6ブロックの試験問題と真剣に取り組んでいました。両日も4年生全員、欠席・遅刻もなく、また試験中のトラブルもなく無事に試験を受けることができました。

結果は皆様ご存じのように平均点が80点を越え、また1人も追試を受けることなく、胸を張れる立派な結果でした。学生にはこれに安心することなく、登院に向けての知識の整理をこのCBTで行ったことで、

これからの臨床実習をより充実したものにして欲しいと思います。



D4 共用試験 OSCE 正式実施

総合診療歯科 長谷川 篤司

2月11日(土)に歯学部第4学年を対象とする共用試験OSCEが歯科病院で実施されました。今回は正式実施の初年度にあたり、参加・協力者は235名(教員171名、職員8名、SP38名、学外評価者18名)で、歯科病院教員のほぼすべてが参加したほかに、基礎講座教員および多数の職員の協力を得ての実施となりました。実施準備はOSCE委員会が担当し、6課題(面接系1、説明系1、技能系4)を3フロアに2課題ずつ配置しました。当日は受験者(87名)の遅刻、欠席者は一切無く、全員上下白で統一された白衣で受験しました。学外の参加者からは、身だしなみと態度、そして活発な声かけや患者対応を高く評価していただきました。受験生たちがこの日の初心を忘れず、1年間の臨床実習に精進して欲しいと願っています。

岡野教授・韓国歯科放射線学会にて特別講演

広報委員長 五十嵐 武

岡野友宏教授(歯科放射線科)は2006年3月18日、韓国・ソウル大学で開催された第38回韓国歯科放射線学会



(The 38th General Assembly and Scientific Meeting, Korean Academy of Oral and Maxillofacial Radiology)に出席され、約150名の参加者を前に「歯科放射線検査における患者被曝の実態」(Patient Doses in Oral Radiographic Examinations: Current Status)について特別講演をされました。講演後、被曝線量の測定法と測定結果や、最近提唱されている診断参考レベルなどについて多くの討論がありました。写真は座長を務めたChang-Seo Park教授(Yonsei 延世大学、写真右)とともに会場で。

診療統計

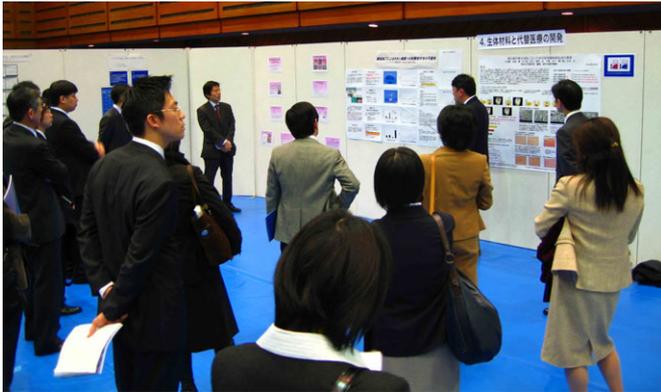
医事課 長谷 孝義

	患者数	1日平均	前月 1日平均	前年 1日平均
外来患者	17,501	795.5	769.0	753.4
入院患者	294	10.5	9.0	13.8

平成18年2月分

平成17年度共同研究成果発表会

歯科理工学教室 玉置 幸道



平成18年3月4日に17年度の研究成果発表会が昭和大学50周年記念館で開催されました。今年度から新しく大型研究課題として

- ① 生活習慣病の危険因子の解明と治療(代表:副島和彦教授)
- ② 高度再生医療の開発(代表:草野満夫教授)
- ③ 高次脳機能の解明とその障害に関する研究(代表:塩田清二教授)
- ④ 生体材料と代替医療の開発(代表:宮崎 隆教授)
- ⑤ メタボローム解析による難治性疾患治療法の基礎基盤構築(代表:野瀬 清教授)

の5つの課題が選択され、それぞれの課題に合致した研究テーマが各学部から選択され3年計画で研究を遂行していこうというものです。

今回は1年目として各研究の進捗状況に対する中間報告会です。当日は午前中に各研究課題の代表者がそれぞれ8-11に細分化された研究テーマの報告に基づいた総括を行い、午後に課題ごとに分かれて各分担者による研究テーマの発表討論会というスケジュールでした。討論は午後1-3時で行われましたが、どの研究課題でも活発な議論が繰り広げられていました。まだ1年目ということで中途での報告も多く見受けられましたが、討論の中でも来年の成果発表会で現在の方向性、現状の成果からどのように進捗していくのか楽しみであるとの声が多く出ました。

最後に共同研究促進会議議長の細山田明義・昭和大学学長より、この1年間の研究者の頑張りに対するねぎらいや賞賛と、より一層研鑽を積むようにといった激励を頂戴して閉会となりました。

富士吉田校舎教育施設設備建設竣工式開催される

歯学部長 宮崎 隆

去る2月20日に、昨年度から建設工事を進めていた富士吉田校舎教育施設設備(第I期)建設竣工式が富士吉田校舎で開催されました。雪が降るなか、

小口理事長、細山田学長ほか大学の役員や、教職員、同窓生、設計会社および施工会社の関係者多数が集まり、「すみれ寮」2階の神事のあと、施設の内覧会、そして食堂で祝賀会が執り行われました。



今年の4月から保健医療学部の新入生も富士吉田校舎で教育を開始します。女子学生の増加に対応すべく、地上6階建て、収容人数200名のモダンな女子寮「すみれ寮」が建設されました。また、最新のマルチメディア装置を完備した多目的用途に適した教室を多数設けた5号館が新設され、食堂も夜間の学生のコミュニケーションエリアとしても活用できる交流テラスを増設しました。さらに、図書館を始め、富士吉田校舎のネットワーク環境が構築されています。

カリキュラムも一新し、歯学部からは富士吉田教育部担当の山田教授と佐々木教授ほか多くの教員が、1年生の教育と学生指導にあたることになっています。



編集後記

広報委員(口腔病理学教室) 山本 剛

早いもので本年度も最終号となりました。年度末の忙しいスケジュールの中、原稿を執筆して下さった先生方に厚く御礼申し上げます。今月号はCBT、OSCEに関して良い報告をすることが出来ました。いよいよ来年度は本学部創立30周年となります。4月からは新入生も入学してまいります。来年度を迎えるにあたり、卒業、退職された方々の残した伝統を受け継ぎ、心新たにますます飛躍できる年度となることを祈念いたします。